

Q2 学校生活の基本的なルールの獲得について

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

毎日楽しく学校生活をしているAさんですが、チャイムの合図で活動を始めたり終えたりすることや、学習用具の準備や片づけができません。Aさんの様子を見てみると、チャイムが活動の始めと終わりの合図であることや、用具の準備や片づけの意味が理解できていないようです。

自閉症の子どもは、学校生活に必要な様々なルールを理解して、集団活動を行う等の社会性の技能が未熟な場合があります。もともと対人関係を意識することが十分ではありませんし、子どもによって言葉の理解や話し言葉が十分ではない場合は、説明してもなかなか理解できない場合があります。

〈このような場合の支援 1〉

小学校1年生の知的障害を伴う自閉症の男児。休み時間の終わりのチャイムが鳴っても、遊びに夢中で教室に戻ってきません。どうもチャイムが次の活動の合図ということが理解できていないようです。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 休み時間が始まる前に、チャイムが鳴ったら教室に戻ることを個別に再確認する。
- ② チャイムが鳴ったらすぐに教師が児童のところに行って、教室に入るよう直接指導する。その際、チャイムの音で「終わり」を意識させる。
- ③ 次の段階では、教師が、子どもの姿の見える離れた場所から教室に戻るように声かけをする。
- ④ 周囲の児童に授業が始まることを声掛けしてもらう。
- ⑤ チャイムが鳴って自主的に教室に戻ることができたら、シールを貼るなどして、行動の評価を視覚的にわかりやすく示す。

〈このような場合の支援 2〉

小学校3年生の高機能自閉症の女児。授業の始まりのチャイムが鳴っても活動の準備をせず、気に入ったキャラクターの絵を描くのに夢中です。反面、授業終了のチャイムを過ぎても学習が終わらない時は、大騒ぎをすることもあります。チャイムの合図で活動を切り替えることや、多少授業が延びることを許容しにくいようです。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑥ チャイムが鳴ったときどう行動すべきか、どんな準備をすべきかを再確認する。
- ⑦ 子どものそばに行って、今は何の時間なのか、何をすべきかさりげなく個別に声かけする。
- ⑧ 話や絵を描くことに夢中になっているときは、授業中ではなく、休み時間に話を聞いたり、絵を見る約束をしたりする。
- ⑨ 事前に今日の日程（時間割や学習内容）などを予告しておいて、自分の出来る範囲で授業に参加するなど見通しを持たせる。
- ⑩ 授業がチャイムで終わらない可能性がある場合には、授業時間が延びるかもしれないことを予め伝えておく。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子